

奥沢

今玉川の大字とす、等々力の東に隣り、九品仏堂あり、浄真寺と称す、品川の西二里。

浄真寺

九品仏堂なり、唯在念仏院と号す、相伝ふ、此地はもと吉良家の家人大平出羽守が住みし所なりと、一旦荒蕪の地となりしを、寛文五年寺地とせり、其頃は珂碩上人越後国村上泰叟寺に在りしを請ひしかば、上人終に延宝六年此地へ來つて住持となれり、仁王門を入て右の方に本堂あり、十一間四面の堂にて西に向へり、龍護殿と扁額す、又本堂の向に三仏堂あり、三字並立せり、何れも九間に六間の堂にて、堂毎に丈六の阿弥陀仏三体づつを安置す、凡て九体なるにより、通じて九品仏堂とも唱へり、西南の方小高き所に開山珂碩上人の墓あり、上人の事蹟は法弟珂恕が記せし行業記に詳なり、記中に曰「師平日造仏九品丈六阿弥陀仏像九軀、每一軀、円光之中、小仏一千十一軀、九品九軀、小仏大凡一万百十軀、丈六釈迦仏像一軀、円光小仏一千十一軀、恵心僧都堅田千軀募像一千十軀、備中千軀、募像一千十軀、石懸千軀募像一千十軀、薬師觀音勢至地藏像各一千十軀、以至於其余仏菩薩像、大凡三万二千軀」云々、又此寺に芝枯の名号と云ふ物あり、幅九尺長さ十三間の紙に書せし六字の名号也、当山二世珂篋上人の筆なり。

沼部

上下の二村に分ち、今鶴ノ木、嶺村と相併せ、調布村と改む。奥沢の東南にして、玉川の岸なる岡辺に居る、或は沼目を作る。

新記云、沼部村の赤坂に觀音堂あり、堂は七尺に九尺南向なり、相伝ふ此本尊は土中より掘出せしが、陶仏の頭ばかりにて全軀なかりし故に、村民磁器の師を作り、彼仏頭を其上に安置して此堂に納むと。○人類学会雜誌云、上沼部村に古墳六所あり、二所は瓢形にして、其一は後田の処に觀音堂を建てられたり、此地は

貝塚(字を花野といふ)と接近しあるを以て、埴輪の破片と、貝塚土器の混じり在り。

(沼目)

土丸子之内、近年川成に付而、世田ヶ谷領沼目之郷と問答候、依之去年己丑九月、興津加賀、中田加賀、安藤代福田、三人之檢使を以、被為見候処に、於上丸子者無紛由申上候間、急度作職申付令授之、御年貢可指上者也、仍如件、

庚寅三月十六日(虎印) 今阿弥、奉之

鶉之木

沼部の東南にして、大森の西一里余にあたる。此辺には貝塚石器、土器、骨器など散在し、池上村の方まで一帯の原人遺墟とす、本門寺、光明寺相距る半里。

補【鶉之木】

○人類学会報告、荏原郡鶉の木村光明寺に石棒あり、長さ九寸五分、寺僧謂ふ、昔時当村に落雷あり、火事となりて一村殆ど焼き尽せり、其時此雷斧を土中より得たるよし、此辺には峯村に於ては貝塚土器・骨又は石の矢の根等を出し、上池上村下池上村本門寺辺には同じく石器土器を出すなり。

光明寺

新記云、鶉之木光明寺、浄土宗、雷留觀音堂あり、觀音立像三尺、殊勝の古仏なり、裾の方焼損じてあり、当寺縁起に「寛喜の頃いづれの年か、六月九日、開山善恵上人、鎌倉八幡宮へ一七日

通夜し、満ずる翌朝門外に異僧に逢ひしが、彼僧此本像を授て去れり、この像はばく光明を放ちければ、当寺を光明と号せり」と、この寺の境内広かりし頃は、この堂も今の処よりはるか隔てあり、相伝ふ新田義興の靈、雷となりて江戸遠江守を追ひし時、かたへの辻堂をさして逃れると太平記に載せたるは、則この辻堂のことにて昔の所にありしころは、人家をはなれてありしさまおもひみるべし、その時雷火を防ぎし靈験ありにより、この名を負へりと、像のたゞれしもこの時のことなるが、遙の後当寺の境内せばまりし頃、改めて堂を此地へ構へりと云ふ、光明寺に石棒を所蔵したり、長さ九寸五分、雷留縁起に附会せらるる者、光明寺池、東西百五十間、南北五十間許、この池古の多磨川筋にて、矢口村の沼に続しと、近き頃までは池と沼との間に塘ありしに、今は古のさまを失ひ沼も亦水田となれり、或時この池の岸を修造せんとて、側の山の根を穿ちしに、石棒を得たり、其中に首領より手足に至るまで全く存せる枯骨あり、いかなる人の葬所にや、今石碑を立て、入定の僧の屍骸ならんと銘文に云へども、素より石槨中誌銘等もなかりしといへば、其実はしるべからず、古碑境内鐘樓の傍にあり、相伝ふ、当寺境内に貞永より天文に至る古碑三十基ありきと、今あるは明徳四年阿闍梨性賢、嘉吉三年道秀禪門、文安二年寛仙阿闍梨、文明四年十月慧蓮、明応二年十二月祐林禪尼、文亀二年逆修禪秀意、永正二年妙心禪尼、永正七年六月妙忍禪尼、天文三年甲午性範大徳等の碑なり。(諸碑いづれも地方普通の青石にて、板率堵婆の形なり)

補【光明寺】 荏原郡○人類学会雜誌、鶉木村にあり、正長四年板碑、天文三年板碑。

